

「柏崎の水」

うばがたに おしみず 安田姥ヶ谷の大清水

安田城之組から明神集落への山沿いの道程に、姥ヶ谷(ばがたととも)というところがある。ここに近郷に知られた清水が湧き出ている、水道が完備するまでは他集落の飲料水として、竹樋(竹の節を抜きつないでパイプがわりにした)で遠くまで引かれて利用されていた。この水を土地の人は「大清水」と呼んで大切にしているが、伝説来歴から別名「地蔵清水」とも言われている。



うばがたに おしみず
姥ヶ谷の大清水

【伝説要旨】 昔、この地を開いた人がここに家を構えたが、飲料水にこまり、あっちこちと掘ってみたが思うように水が出なかった。ある夜、夢に地蔵尊が現われ「われは汝が日ごろ信仰する地蔵尊である。どこそこの地を掘ってみよ、必ず良い水が出る」というお告げがあった。翌日、お告げの地を掘ったところ、石に刻んだ立派な地蔵尊があり、その下からきれいな水がこんこんと湧き出てきた。これはありがたいことだとその地蔵尊を祀り、その名を「清水地蔵尊」と言って大切にした。(「柏崎市伝説集」参考)

地蔵の夢知らせ伝説を持つ清水であるが、現在地蔵尊の姿はなく、いつの頃からか小屋の奥に、庚申塔(青面金剛)2基と馬頭観音1基が据えられていて、水神として名水を守っている。

小屋の外に石柱があり、「大正十三年七月起工世話人 片桐健太郎 上野長左衛門」と刻まれている。

また、小屋の左右両面に「大清水家屋建築費寄附者芳名」板が2枚掲げられている。芳名板に記年はなく、薄れて判読できない文字もあるが、明神組・鳥越組・中道組・城之組の各集落寄附をはじめ、100名以上の寄附者名が確認できる。

この湧き水を誇りにし、大切に利用してきた近郷の人々の厚い思いが伝わってくる。



参考資料

「柏崎市伝説集」	柏崎市教育委員会編発行	1972
「田尻村のはなし」	酒井薫風著 柏崎郷土資料刊行会	1975
「柏崎の石仏」	柏崎市立博物館	1991
「石仏のまちを歩く」	阿部茂著 柏崎市立博物館	1994
「田尻漫歩今むかし」	田尻公民館	1999
「日本民俗大辞典」	吉川弘文館	2000